

Contents

徳橋秀一氏定年退職記念特別シンポジウム
「最近のタービダイト研究事情」開催報告

地質の日関連イベント

- 春の特別展「五百澤智也 山のスケッチとフィールドノート」と講演会「地質探偵ハラヤマと探る槍穂高連峰の生い立ち」の開催
- 「つくばフェスティバル2009」に「移動地質標本館」出展 - GSJ スタッフジャンパーデビュー
- 地質標本館特別講演「氷河の痕跡を探せ! - 北アルプスの氷河地形調査 -」
- 「作って学ぼう! デスマスチルスのパークラフト」
- 地質標本館野外観察会2009「霞ヶ浦は昔、海だった?」

日本地球惑星科学連合2009年大会ブース出展報告

平成21年度新入職員研修 (野外巡検)

新入職員研修参加者からのひとこと

スケジュール

編集後記

地質標本館 夏の特別展 「ジオパークへ行こう!」

徳橋秀一氏定年退職記念特別シンポジウム 「最近のタービダイト研究事情」開催報告

七山 太・渡辺 真人 (地質情報研究部門),
中嶋 健 (地圏資源環境研究部門), 小松原 純子 (地質情報研究部門)

地圏資源環境研究部門燃料資源地質研究グループの徳橋秀一氏が今春3月末日をもって定年退職されました (写真1)。徳橋氏は多くの人たちから慕われ、産総研内の研究部門や産総研の垣根を越えて各方面の方と交流されてきました。また、学会や研究活動を通じて、若手研究者の育成にも多くの貢献をされてきました。

私たち4名の世話人は徳橋氏の長年にわたる功績を讃える目的で、氏に縁のある研究者が集って最近の研究動向を語り合う特別シンポジウム「最近のタービダイト研究事情」を企画しました。その結果、多くの賛同者が得られました。そこで、4月24日 (金) につくば中央7-3C 211 会議室において、徳橋氏を含め所内外の11名の講演者を迎え、下記のプログラムで開催いたしました。

13:00-	七山 太・小松原純子 (地質情報研究部門) : シンポジウム「最近のタービダイト研究事情」ことはじめ—徳橋秀一氏のタービダイト研究の意義
13:10-	池田 宏 (元筑波大学) : 陸上の重力流の挙動
13:30-	白井正明 (首都大学東京) : 光ルミネッセンスを利用して明らかにする川から深海への砂の旅
13:50-	大村亜希子 (東京大学海洋研究所) : 有機物から見た熊野トラフのタービダイト
14:10-	池原 研 (地質情報研究部門) : タービダイトから過去の地震発生を知るために
14:40-	石原与四郎 (福岡大学) : タービダイトの連続性とその意味
15:00-	中嶋 健 (地圏資源環境研究部門) : タービダイト貯留岩の最近の研究動向
15:20-	辻 隆司 (石油資源開発 (株)) : FMI画像でみるタービダイト
15:40-	高野 修 (石油資源開発 (株)) : 海底扇状地タービダイトシステムの形態バリエーション: 内因外因規制・サイスミック地形学解析・実験
16:15-	野田 篤 (地質情報研究部門) : 周期的な横ずれ断層運動による海底扇状地の堆積場の後退と岩相変化
16:35-	奈良正和 (高知大学) : タービダイト堆積場の古生態学: 深海生理在動物の行動を探る
16:55-	徳橋秀一 (地質標本館) : タービダイトに関するよもやま話—特に、気になるいくつかの現象や事例について—



写真1 徳橋氏 (右) への花束贈呈。

このシンポジウムには、我々の当初の予想を上回り総計 80 名の皆様に参加されましたが、その半数は所外からの参加者でした。遠く福岡、高知、京都、新潟からもご参加いただきました。また、徳橋氏に縁のある石油、天然ガス関係の業界の皆様にも多数ご来場いただきました。

シンポジウムは、午後 1 時に開始され、特に冒頭の池田 宏先生の重力流の生実験は視覚的に理解しやすく参加者には大変好評でした（写真 2）。その後もタービダイトに関する興味深い熱演が続き、これに対する徳橋氏の質問やコメントも冴え渡っていました。そしてシンポジウムの最後に徳橋氏が登壇され、氏のタービダイト研究の子細に渡る総括が行われ、予定時間を大幅にオーバーしながらも午後 6 時 15 分に皆様の拍手の中で閉会を迎えました。

末尾ながら、当日のシンポジウムにご参加いただき、会場の準備や後片付けをお手伝いいただいた所内の皆様には、世話人一同、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、徳橋氏の地質標本館でのシニアスタッフとしての更なるご活躍を、心から願っております。



写真 2 池田 宏先生による重力流実験の様子。

地質の日関連イベント

春の特別展「^{いおざわ}五百澤智也 山のスケッチとフィールドノート」と
講演会「地質探偵ハラヤマと探る槍穂高連峰の生い立ち」の開催
澤田 結基（地質標本館）

地質標本館では、4 月 14 日（火）から 7 月 5 日（日）まで、春の特別展「^{いおざわ}五百澤智也 山のスケッチとフィールドノート」を開催しています。この特別展では、国土地理院 O B で地図作家、地形研究者の五百澤智也氏の作品を展示しています。五百澤氏の作品の特色は、細かい地形描写にあります。軽飛行機から撮影した斜め空中写真を実体視し、地形判読することで描かれた鳥瞰図には、山に刻まれたガリー侵食の痕跡や地層境界が、ペンで精密に表現されています。

そこで特別展では、精密な鳥瞰図に含まれる地質情報を引き出すために、鳥瞰図に描かれている山の地形・地質の解説パネルを並べて展示しました。パネル解説は、富士山の地形・地質を地質情報研究部門の石塚吉浩氏、槍穂高連峰の地質を産総研 O B で信州大教授の原山智氏、そして槍穂高連峰の氷河地形を明治大学の長谷川裕彦氏が担当されています。鑑賞するだけでなく、山の成り立ちがわかり、そして岩石標本も



一緒に見ることができる、ちょっと変わったギャラリーになっています。

また、特別展のもう一つの目玉が、五百澤氏が氷河調査・取材のためにネパールヒマラヤを訪れた際のフィールドノートの展示です。ノートには、等高線によって表現された地形や歩尺による距離計測データ、沿道の民家の様子までもが詳しく記録されています。野外でフィールドノー



写真 1 特別展の会場。絵の展示が中心のギャラリーになっています。

トを使う私たちにとって、記録を詳しくとることの重要性を改めて認識させられる展示です。

4月19日(日)には関連イベントとして、信州大学の原山智氏による講演会「地質探偵ハラヤマと探る槍穂高連峰の生い立ち」を共用講堂で開催しました。会場には、110名の熱心な聴衆が詰めかけました。演台の原山氏が「槍穂高連峰に登った方はいらっしゃいますか?」と質問すると、何とほとんどの方から手があがっていました。この日は科学技術週間の親子向けイベントもありましたが、多くの参加者は講演会と特別展を目的にご来場いただいたようです。今回は初の試みとして、月刊誌「山と溪谷」に特別展開催の広告を掲載しましたが、その効果もあったものと考えています。

春の特別展は、7月5日までの開催です。まだご覧になっておられない方は、ぜひ地質標本館1階ロビーへ足をお運びください。



写真2 講演会の様子。北アルプスの歴史を知りたいという想いをお持ちの方が多く、会場は熱気に包まれました。

「つくばフェスティバル2009」に「移動地質標本館」出展 - GSJスタッフジャンパーデビュー -

吉田 朋弘・酒井 彰・宮地 良典・玉生 志郎(地質標本館), 吉川 敏之・川畑 晶・藤原 智晴・百目鬼 洋平(地質調査情報センター), 井本 由香利・佐藤 幹夫・星野 美保子(地圏資源環境研究部門), 納谷 友規・楮原 京子・佐藤 鋭一(地質情報研究部門)

5月9日(土)・10日(日)の両日、つくばセンター広場で開催された「つくばフェスティバル2009」に「移動地質標本館」を出展しました。新型インフルエンザの影響も懸念されましたが、会場は多くの来場者で賑わい、つくばインフォメーションセンター内に展出した当ブースにも、多くの!?(ちょうどいいくらい)のお客様がおみえになりました。

今回は、地質調査情報センターで作成したGSJスタッフジャンパーをお借りました。これがGSJスタッフジャンパーのデビューとなりました(写真)。

屋外展示では、会場入口に昨年同様「筑波研究学園都市及び周辺地域の環境地質図(2万5千分の1)」を250%に拡大して床貼りで展示しました。昨年は雨天だったため、解説者は濡れて大変でしたが、今年は日差しが強くて大変でした。

室内展示(写真)では、1)比較展示「現在の筑波台地」と「120年前の筑波台地」、2)日本の地形を立体視!、3)親子で作ろうペーパークラフト「飛び出す火山・富士山」、4)ご自由にお持ち下さい!(GSJの出版物)、のコーナーを出展しました。立体視のコーナーでは、地質情報展

のお土産に使用している3Dセット(メガネ+カード数種)の中から、デスモスチルスやアンモナイトの画像を展示し、子供たちに大人気でした。

昨年、私から所内で協力者の依頼を行い、お手伝いいただきましたが、今回は新人研修の一環として、新人の協力も得ることができました。新人協力者には、主にペーパークラフト作成の担当をお願いしました。このコーナーでは、2日間で「飛び出す火山」299個、「富士山」51個を来場者に体験していただきました。



写真 室内展示の全貌と、GSJスタッフジャンパー(右)。

地質標本館特別講演会「氷河の痕跡を探せ！ ー北アルプスの氷河地形調査ー」

澤田 結基（地質標本館）

地質標本館では、地質の日の5月10日（日）に、明治大学の長谷川裕彦氏による特別講演会「氷河の痕跡を探せ！ ー北アルプスの氷河地形調査ー」を開催しました。この講演会は、春の特別展「五百澤智也 山のスケッチとフィールドノート」の関連イベントで、地質の日に日程を合わせて開催したものです。会場である地質標本館の映像室は、52名の聴衆でほぼ満席になりました。

長谷川氏は、長年にわたって日本アルプスの氷河地形を調査しておられます。今回の講演では、長谷川氏が登山に出会い、そして北アルプスに残る氷河地形の研究へと進んでいく話から始まり、スイスやカナダなど海外の氷河や氷河地形、日本アルプスの氷河地形や堆積物のお話が、とてもスムーズな流れで進められました。大手予備校の人気講師でもあった長谷川氏のテンポの良い講演に、参加者も我々運営スタッフも夢中になりました。

講演の後は、特別展で展示中の作品に描かれている氷河地形の成り立ちを、長谷川氏に解説していただきました。ここでも参加者は、わかりやすく情熱的な解説に真剣に聞き入っていました（写真）。

5月10日のイベントは、開催中の特別展、講演会に専門家による展示解説と、とても密度の濃い内容となりました。また、今回の講演会では、5月10日は「地質の日」だから何かやっているにちがいないと思って来られた方もいらっしやいました。一般の方にも「地質の日」が少しずつ定着しているようです。



写真 ギャラリートークで鳥瞰図を解説する長谷川裕彦氏。

「作って学ぼう！デスモスチルスのペーパークラフト」

兼子 紗知・利光 誠一・森尻 理恵（地質標本館），兼子 尚知・楳原 京子（地質情報研究部門）

地質の日関連イベントの一環として、5月9日（土）に地質標本館で「作って学ぼう！デスモスチルスのペーパークラフト」を開催しました。内容はメインイベントとして、「デスモスチルスのペーパークラフト作り」、サブイベントとして、「化石折り紙」、「エキジョッカー（液状化簡易実験装置）の実演解説」の2つを用意しました。

ペーパークラフトの「デスモスチルス」は「飛び出す火山」に続き、体験コーナーに活用すべく昨年度末、東京大学の犬塚則久先生及び地質情報研究部門の兼子（尚）の監修のもと、地質標本館企画・運営チームが検討し、新たに作製したものです。昨年3月に福井で行われた「移動地質標本館」でデビューし、今回が2回目の登場でした。

1セットに、「デスモスチルス本体」、「臼歯」、「台座（2種類）」、「解説文」の5つの型紙が入っています。そのうち、今回は時間の都合上、「デスモスチルス本体」のみの作成とし、その他の型紙は、自宅に持ち帰って作成してもらうようにしました。

まず参加者には、地質標本館第一展示室のデスモスチルス全身骨格復元模型を観察してもらい、デスモスチルスに

関するクイズに答えてもらいます。そして、ペーパークラフト監修者である兼子による生態などの特徴の解説を聞いてからペーパークラフトの作業に入りました。

地質標本館で作成してもらった「デスモスチルス本体」は、型紙に切れ目が入っているので、ハサミを使用せず、手で簡単に抜き取ることが出来ます。後は、折り線にそって折



写真 デスモスチルスのペーパークラフトと会場の様子。

り、のりで貼っていきます。作業時間として、事前にスタッフが実際に作成しながら時間を計り、1時間を確保することにしました。

参加対象者は小学生を主としました。各パーツののりしろ部分が小さくて、組み立てていくことが大変だったと思いますが、黙々と真剣に作業をしていました(写真)。十分に作業時間を確保したため、参加者全員が時間内に完成し、自分で作ったペーパークラフトを手に満足そうな様子でした。実は、遅い人のための「おのこりコーナー」を用意しておいたのですが、必要ありませんでした。

「化石折り紙」コーナーでは、「アンモナイト」、「三葉虫」、「ティラノサウルス」など8種類の折り紙を用意し、いつでも誰でも参加できるようにしました。小さなお子さんや、ペーパークラフトには時間がかかるため参加しない方、そして「折り方を覚えて帰って、子供に教えてあげる」と作っていくお母さん達もいました。折り方のテキストは用意しましたが、折り紙独特の言い回しで分かりにくい部分については、スタッフがアドバイスしました。待ち時間もなく、

手軽に参加できる体験コーナーとして用意しましたが、皆さん時間を忘れて熱中していたようです。

「エキジョッカー」のコーナーでは、たくさんの人たちが足を止めていきました。日本において地震は身近なもののですが、地下で起きている液状化の現象に遭遇することはめったにありません。ペットボトルで起こる液状化現象はわかりやすく、見学者の興味を引いていました。中には繰り返し実験している人もいました。

イベント当日は、事前の周知不足と、好天が重なったためか、ペーパークラフトの参加者は21人と少なめでしたが、その分、1人1人に目が行き届き、参加者には満足してもらえたようでした。昨年からはじまった地質の日関連のイベントですが、これからも地質の日が一般の方々に定着するように色々な企画を考えていきたいと思います。

最後になりましたが、今回のイベントには筑波大学からの博物館実習生4名が参加しました。ご協力ありがとうございました。

地質標本館野外観察会2009「霞ヶ浦は昔、海だった？」

中島 礼(地質調査情報センター)、澤田 結基・利光 誠一・古谷 美智明・兼子 紗知(地質標本館)、中澤 努・宮地 良典・長森 英明(地質情報研究部門)

5月16日に「地質の日」及びIYPE協賛イベントである野外観察会「霞ヶ浦は昔、海だった？」が開催されました。昨年の「地質の日」の観察会では筑波山周辺の山地を巡りましたが、今年は海をテーマに霞ヶ浦周辺を観察地としました。このイベントについては、地域の情報紙やウェブサイトを用いて参加者を募り、当日はつくば市周辺のほか東京や埼玉から27名の参加者がありました。

現在淡水湖として知られる霞ヶ浦が、昔は海であったということ学んでもらうため、今回「霞ヶ浦は昔、海だった？」という観察会のテーマを考案しました。そして、今回の観察会は、海成の地層の形成や霞ヶ浦の成り立ちを理解してもらうために、海浜の地形や地層の観察、そして地質標本館のイベントの売りでもある堆積実験を取り入れることにしました。

当日は地質標本館とTXつくば駅に集合し、マイクロバスで一つ目の観察地点である銚田市の大竹海岸に向かいました。大竹海岸ではまず、50cm程度の深さのトレンチを掘り、壁面にみられる砂の堆積構造の観察を行いました。この砂浜には砂鉄が多く含まれ、白い石英などの鉱物と砂鉄のきれいなラミナが観察できました。海岸の砂浜は海水浴などで身近に接するものですが、砂浜を少し掘るだけで見られる模様に参加者は驚いていました。その後、砂浜を横切るように流れる水路でベッドフォームの観察を行

い、そしてタライやエキジョッカーを用いたリップルを作る堆積実験を行うことで、水の流れによってできる構造を学んでもらいました。また、砂浜に打ち上げられた貝殻やゴカイなどの生物、砂鉄などの採集も行いました。大竹海岸での観察を終えた後、隣接する鹿島灘海浜公園に移動して昼食をとりました。

二つ目の観察地点は銚田市阿玉にある下総層群の露頭で、海浜から浅海にかけての堆積物の観察と貝化石の採集を行いました。ここではいろんな種類の堆積構造が観察でき、大竹海岸の現世の海浜との比較を行うことで、地層が



写真1 大竹海岸の水路で堆積構造の観察。

昔のような水深で形成されたのかを解説しました。その後、海面の変化から三角州や段丘をつくる堆積実験を行いました。最後には、地層の示す海面の変化や堆積実験の観察を通して、昔は海だった霞ヶ浦周辺が、陸上や河川、海の入江などの環境を経て、現在の湖になったという12-3万年前から現在までの環境変化を参加者に解説し、イメージしてもらいました。

最近では地球温暖化によって生じる環境問題に興味を持っている参加者も多く、長い目でみると、地層の観察をすることで私たちの住む大地は、海面変動によって陸から海へ、海から陸へと何度も環境が変化していたことを読み取ってもらえたようです。小学生の参加者には難しい内容だったと思いますが、化石や砂鉄の採集、砂浜での生物の観察は楽しんでもらえ、また、海に住んでいる生物の化石が陸上から出てくる意味は理解してもらえたと思います。



写真2 阿玉での貝化石採集。

日本地球惑星科学連合2009年大会出展報告

藤原 智晴・吉川 敏之（地質調査情報センター）

去る5月16日～21日の期間、日本地球惑星科学連合2009年大会が幕張メッセで開催されました。地質調査総合センター（GSJ）では、機関を通じて団体展示ブース及びパンフレットデスク展示（写真1、2）を出展し、広報活動と出版物の販売を行いました。展示の内容と結果について、以下に報告いたします。

団体展示ブース

折からの新型インフルエンザ騒ぎで、初日は参加者の多くがマスクを着用していて、異様な雰囲気が漂う会場となっていました。マスクの入手が困難になったためか日を迫る毎にマスク着用率はさがっていきました。主催者の公式発表を確認していないので、確かではありませんが、参加者数自体も昨年より少なかった様に感じました。

話がそれてしまいましたが、肝心の展示ブースの方は、



写真1 GSJブースの様子。

地質図類の販売は伸び悩み、残念ながら売上額は去年の半分にも達しませんでした。一方、無償配布を行った「地質標本館グラフィックシリーズ」の「化石アトラス」、「生物と地球の歴史」、「富士山ペーパークラフト」などは幅広い年齢層に好評で、持ち込んだ分はすぐに捌けてしまったため、急遽補充をして追加配布を行ったほどでした。

また、今回はブースに掲示したセンターの概要をしばらく見た後で、「どうしたらここに就職できますか?」、「人材募集はしていますか?」などといった質問をしてくる学生も多く見受けられました。

売上こそ伸びませんでした。地質調査総合センターの概要を広く宣伝できたのではないかと思います。

今年も皆さんにお手伝いいただき、ブース出展を無事に終えることが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。（文責：藤原智晴）

パンフレットデスク展示

今年にはジオパークが正式にスタートする時期に当たります。日本ジオパーク委員会の事務局を務めるGSJとしても、委員会とジオパークの周知・広報も行うために、GSJの出展とは別途、ジオパーク用に「パンフレットデスク展示」スペースを出展しました。パンフレットデスク展示とは、その名の通りパンフレットの配布を目的としてデスク一台分のスペースが利用できる展示で、説明員を常駐させることや電源を要する展示はできませんが、ハレパネのような自立式のパネルを立てることは可能です。パンフレットデスク展示は、出展料が団体展示ブースの10分の1で

済むためか、今年は出展が大幅に増えていました。ジオパーク用ブースを出展するに当たっては大会事務局と交渉を重ね、2階会場入口脇の一等地を4コマ連続で確保しました。パンフレットは日本ジオパークの7地域を初め、ジオパークを目指す地域、ジオパークに関係する機関などに協力を依頼したところ、計16種類(各100~500部)を準備することができました。入口脇という地の利もあって注目度も上々で、半数以上のパンフレットは期間中に品切れになりました。パネルは4コマ連続となると総延長7m以上にも達する大規模なデザインが可能です。今回は、ここでジオパークの誕生から今日までの経緯と歴史を解説しました。ただし、来客の視線がどうしてもパンフレットに集まるため、パネルの注目度は今ひとつであった気がします。それでも、地域からはこの内容をプレゼンテーション資料として使いたいとの要望があり、プレゼンテーション用のファイルを急遽作成したので、学会後も活用していただければ幸いです。

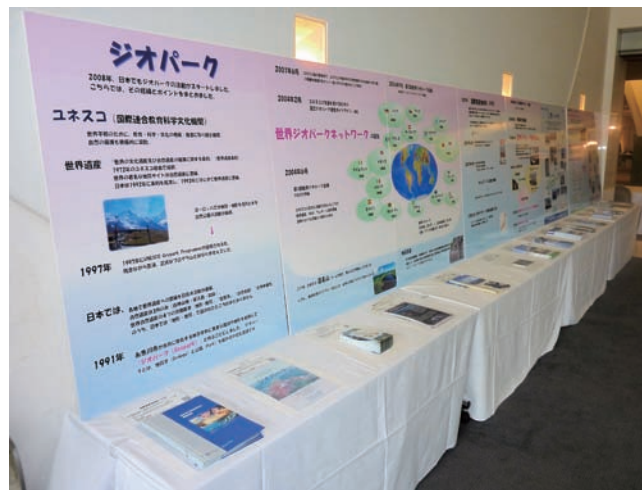


写真2 パンフレットデスク展示の様子。

出展に際しては、地質調査総合センターの多くの方にご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。(文責：吉川敏之)

平成21年度新入職員研修(野外巡検)

中島 礼(地質調査情報センター)

4月より地質調査総合センターにおける新入職員研修が行われていましたが、5月14日に研修の最後のプログラムとしての野外巡検が行われました。今年の新入職員は正職員が2名と少なかったのですが、産総研イノベーションスクールや専門技術者育成事業で採用された契約職員が多く、今回の野外巡検においてもこの中から14名もの参加がありました。巡検案内は地質情報研究部門の西岡芳晴さん、宮地良典さん、そして報告者の中島が担当しました。巡検ルートは美浦村馬掛(第四系下総層群)、笠間市(笠間工芸の丘で昼食)、笠間市(タカタ石材における稲田石採石場と石の百年館見学)、桜川市(桃山における花崗岩の接触関係)、筑波山梅林(はんれい岩の土石流堆積物と地形観察)という内容です。このルートで観察される地層や岩石は、つくば市の平野や山地の地盤を構成する地層を理解する上で典型的なものであるため、案内者の3名が考案して3年前の新入職員の巡検から使用しています。

入所してから今までは室内での研修などで忙しかったと思いますが、巡検当日は天気がよく、参加者はつくばの地質を学び、そして楽しんでもらえたと思います。14名もいると多くの分野の専門家に分かれていますが、今回は堆積学の専門家が多かったようです。美浦村の下総層群の露頭では、海成堆積物の観察を行いました。積極的にねじり鎌を用いて露頭を削り、堆積構造を観察し、そして議論が交わされていました。また、日頃遠くに眺めるだけの筑波山

も、それを構成する花崗岩やはんれい岩を直接観察し、ハンマーで叩くことは新鮮だったと思われます。

新入職員の方たちのほとんどは、この春につくばに住み始めたことと思います。私たちの生活の場であるつくば市の地盤がどのような地層や岩石からなっているのか、いつの時代の地層なのか、どのような過程で現在の筑波山や平野が成り立ったのか、という身近な地質に少しでも興味を持ってもらえていたらと思います。新入職員の皆さんには巡検に参加していただき、また案内者の方たちにはお世話いただき、この場を借りてお礼申し上げます。



写真 筑波山梅林にて。

地圏資源環境研究部門

鉱物資源RG

星野美保子 (若手任期付研究員) : 筑波大学で鉱物の研究をしてきました。小さなものの同定ならまかせてください。よい研究成果がだせるよう一生懸命がんばりますので、よろしくをお願いします。

恒松麻衣子 (専門技術者育成事業) : 一年間テクニカルスタッフで入りました。いろいろ資格を取得したいと思っています。よろしくをお願いします。

地下水RG

山本隆広 (産総研特別研究員・IS*) : 長岡技大で河川水文学を研究していました。解析系がメインでしたが、観測にも興味があります。

地質情報研究部門

平野地質RG

納谷友規 (若手任期付研究員) : 微化石(珪藻)の研究をベースに平野の地下地質研究,そして地質図幅の研究に取り組み,良い成果を出していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

河野樹一郎 (産総研特別研究員・IS*) : 古環境復元を活かした仕事に興味を持っています。どうぞよろしくお願いたします。

地殻構造RG

楢原京子 (産総研特別研究員) : 変動地形と地下構造を合わせた研究を進めていきます。自分のできる事を一生懸命頑張りますので、よろしくをお願いします。

海洋地質RG

天野敦子 (産総研特別研究員) : これまで,小さな内湾環境の研究をしてきました。その経験を活かして,これからは新潟沖コアの研究を行ないます。

佐藤智之 (産総研特別研究員) : 京都大で堆積構造をみて楽しんできました。これからは音波探査を使った研究を行います。反射面をみて楽しんでいきたいです。

吉河秀朗 (産総研特別研究員・IS*) : 今までには沿岸域における土砂移動に関する研究を行ってきました。今後は,海洋地質学や堆積学について幅広く研究していきたいと思います。よろしくお願いたします。

沿岸堆積RG

田林 雄 (産総研特別研究員) : 堆積物の化学分析を中心に研究を進めます!地質調査所蹴球部の活動も頑張りたいと思います。

松本 弾 (産総研特別研究員・IS*) : 研究の他にイノベーションスクールでの企業研修や地質調査所野球部の活動も頑張りたいと思います。

小峯彩子 (テクニカルスタッフ・I専*) : アジアのデルタ平野に興味があります。1年間と短い期間ですが,できるかぎりのことを吸収したいと思います。

部門付研究員

岡田真介 (産総研特別研究員) : 産総研のよい環境と人脈を生かして頑張ります。よろしくお願いたします。

物質循環RG

石村豊穂 (専門技術者育成事業) : 技術と応用。微量にこだわります。

安富友樹人 (テクニカルスタッフ・I専*) : 本年度から,1年間,産総研でお世話になります。ここで様々なことを学んで,それを礎に更なる成長ができるようがんばりたいと思いますので,どうぞよろしくお願いたします。

長期変動RG

佐藤鋭一 (産総研特別研究員・IS*) : 一年間ですが,頑張ります。火山の噴火現象について研究していきます。よろしくお願いたします。

火山活動RG

荻津 達 (テクニカルスタッフ・I専*) : 一年間と短い期間ですが島孤マグマの成因について精一杯研究したいと思っています。よろしくお願いたします。

活断層・地震研究センター

活断層評価研究チーム

谷口 薫 (テクニカルスタッフ) : 変動地形学・古地震学的な手法をもちいて活断層の研究をしています。よろしくお願いたします。

地質調査情報センター

地質情報統合化推進室

野々垣 進 (産総研特別研究員) : 3次元地質モデリングに関する研究をやっています。よろしくお願いたします!

スケジュール

4月14日~7月6日	地質標本館春の特別展 「五百澤智也 山のスケッチとフィールドノート」(地質標本館) http://www.gsj.jp/Muse/evc/2009/fieldnote/fieldnote.html
7月2日	GSI第15回シンポジウム「古地震と現在の地殻活動から地震を予測する 一産総研 活断層・地震研究センターが目指す地震研究一」 (秋葉原ダイビル コンベンションホール) http://www.gsj.jp/Event/090702sympo/index.html
7月21日~9月27日	地質標本館特別展「ジオパークへ行こう!」 http://www.gsj.jp/Muse/evc/2009/geoperk/index.html
7月25日	地質標本館特別講演「地球はもっとおもしろい!ジオパークへ行こう!」 渡辺真人氏(地質情報研究部門)(産総研共用講堂) http://www.aist.go.jp/aist_j/event/ev2009/ev20090725/ev20090725.html
7月25日	産総研一般公開(産総研つくばセンター) http://www.aist.go.jp/aist_j/event/ev2009/ev20090725/ev20090725.html
8月11~16日	Asia Oceania Geosciences Society 2009(AOGS) Annual General Meeting (シンガポール) http://www.asiaoceania.org/
8月22日	夏休み地球何でも相談(地質標本館)



編集後記

中島 礼 (地質調査情報センター)

5月10日は「地質の日」でした。去年から始まったこの「記念日」の前後約1ヶ月間に,日本各地で約90もの「地質の日」協賛イベントが開催されたようです。産総研でも本号に掲載されているような盛りだくさんのイベントが開催されました。私自身もイベントを企画して,老若男女,専門家からそうでない方たちにもいろんな地質を身近なものとして感じてもらうことができました。また,知ってもらうことの難しさも痛感しました。組織として行うアウトリーチ活動は,同時に活発な研究活動があつてこそのもので,私たちは,アウトリーチと研究という両輪を掲げて地質分野の普及に努める必要があると思えます。

私が苦手にしている梅雨の季節となりました。さわやかな夏が待ち遠しいですね。

GSJ Newsletter No.57 2009/6

発行日:2009年6月23日

発行:独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター

編集:独立行政法人産業技術総合研究所地質調査情報センター

脇田 浩二(編集長)

中島 礼(編集担当)

志摩 あかね(デザイン・レイアウト)

GSJ ニュースレターは,バックナンバーも含めて,地質調査総合センターホームページでご覧になれます。

地質調査総合センターホームページ: <http://www.gsj.jp/>
GSJ Newsletter のページ: <http://www.gsj.jp/gsjnl/index.html>